日 本 国 際 教 育 学 会

JIES NEWSLETTER

January 2016　No.27

ニューズレターダイジェスト

- ○　学会長挨拶
- ○　第 26 回大会報告
- ○　第 26 回総会報告
- ○　決算報告及び予算案
- ○　2015-2016 年度役員一覧
- ○　事務局だより
- ○　紀要『国際教育』第 22 号原稿募集
- ○　第 27 回大会のお知らせ
- ○　2016 Conference Information

第 27 回大会　公開シンポジウム
「ミクロネシア地域の教育課題」

学 会 長 挨 拶

日本国際教育学会第 26 回大会を終えて

会長　岩﨑 正吾（早稲田大学）

素晴らしい天候に恵まれ、緑輝く相模原の大地に位置する相模女子大学にて、9 月 12 日（土）と 13 日（日）の両日にわたり、日本国際教育学会第 26 回大会が盛大に開催されました。研究大会に相応しい大きな成果があげられたことに対して、会員の皆様の日頃の研究への真摯な取り組みとご協力に敬意を表したいと思います。

開催校が最終的に決定するまでに紆余曲折があり、会員の皆様に多大なご迷惑とご不便をおかけしましたことは、一重に会長の責任であり、会員の皆様に深くお詫び申し上げる次第です。こうした事態にも拘わらず、大会開催に向けた準備が速やかに図られ、滞りなく終了することができたことは、渡辺幸倫大会実行委員長をはじめとする相模女子大学の

関係者のご尽力のたまものであり、深く感謝申し上げる次第です。

今大会では、2 日間にわたる自由研究発表と共に、第 1 日目には、ミクロネシア地域をめぐる教育課題についての公開シンポジウムが実施され、また、第 2 日目には、学力政策の国際比較に関する課題研究が行われました。公開シンポジウムでは、日本とも関係の深いミクロネシア連邦をはじめ、パラオ共和国やマーシャル諸島共和国の教育課題について報告がありました。いずれも多民族国家であり、公用語としての英語だけでなく、ミクロネシア連邦ではチューク語、ヤップ語、コスラエ語、ポンペイ語、パラオ共和国ではパラオ語やタガログ語、中国語、マーシャル諸島共和国ではマーシャル語など、言語と教育の問題をめぐる議論が展開されました。このことは、言語権と教育権との関係を探求している私にとっても大変有意義な企画でした。また、課題研究におけるアメリカとニュージランドの学力政策の比較検討は、日本の学力政策を顧みて、その課題を展望する上で貴重な議論の材料と研究視点を提供してくれたと高く評価したいと考えます。現在、「大胆な」新自由主義的教育改革を推し進めているロシア連邦をフィールドとしている私にとって、学力とは何か、誰にとってどのような学力が求められているのか、サービスという「売買の対象としての商品」ではなく、あくまでもすべての人々にとっての人権として捉えていく教育の有り様とはどのようなものかという論点の深化に大いに貢献するものでした。

さて、2015 年が終わり、2016 年を迎えて、国際的には様々な問題が生起しています。中東に端を発するイスラム諸国における紛争は、アフリカをはじめ米国や欧州だけでなく、ロシアやトルコを含んでグローバルな規模に拡大し、アジアでは日本、韓国、中国、北朝鮮などの諸国をめぐる様々な問題の解決が迫られています。こうした混沌とした情勢の中で、排外主義が勢いを増し、反知性主義が席巻しつつありますが、実証性や客観性を無視して､恣意的に世界を解釈する態度は日本国際教育学会の方向性とは真逆の在り方ではないでしょうか。日本国際教育学会がその目的としている教育研究は、大きな世界史の流れの中で自己を位置づけ、実証性と客観性に裏付けられた確かな知の創造に向けて邁進していかなければならないと考えるものです。

最後に、よりよき教育をめざす研究の発展のために、日本国際教育学会の会員の皆様と力を合わせつつ微力を尽くすつもりです。会員の皆様の研究の一層の発展を願ってご挨拶とさせて頂きます。

第 26 回 大 会 報 告

1. 日本国際教育学会第 26 回大会報告

大会実行委員長　渡辺 幸倫（相模女子大学）

日本国際教育学会第 26 回大会は 2015 年 9 月 12 日（土）・13 日（日）に、神奈川県の相模女子大学で開催されました。小規模な女子大ということもあり、施設面でご不便をおかけした点も多かったかと思いますし、初日に隣接のグランドで開かれていた中高等部の運動会や予想外のお手洗いの改修など事前準備・連絡の不備が目立つお恥ずかしい運営ではございましたが、参加された会員・非会員の皆様のご理解とご協力のおかげで、無事に終了することができました。

さて、大会初日は公開シンポジウム及び 12 件の自由研究発表がありました。公開シンポジウムでは「ミクロネシア地域の教育課題」をテーマに、玉井昇氏（大分県立芸術文化短期大学）から地域に共通する教育課題を考える際の枠組みとして、この地域は日本との歴

史的文化的つながりが深く、さらには国際教育協力という形でも緊密な関係が作られつつあるにもかかわらず、教育学の分野での蓄積が十分ではなく、教育協力の実務と研究のギャップが生じているということが提示されました。これを枠組みとして、ミクロネシア連邦、パラオ共和国、マーシャル諸島共和国の三国の教育について、現地で教育にたずさわった経験を持つ、谷川頼子氏（元 Associate professor, College Of Micronesia-FSM：ミクロネシア連邦）、相沢友紀氏（元 Education specialist, Math program : パラオ共和国）、山田伸明（元 Elementary school teacher：マーシャル諸島共和国）からぞれぞれの国の教育課題について報告いただきました。今後は本学会でも同地域の研究が注目を集めてくるのではないかと考えられます。

2 日目には課題研究および 8 件の自由研究発表がありました。課題研究は、「学力政策の国際比較」をテーマに、北野秋男会員（日本大学）からは「日米の学力テスト体制を中心に」と題して、1980 年代から現在に至るアメリカにおける学力テストの変遷から現在の強烈な結果主義の引き起こしている状況について、大庭由子会員（安田女子大学）からは「ニュージーランドの学力政策・学力問題」と題して、ニュージーランドの教育における先住民であるマオリや移民の位置づけから現地調査を踏まえた最新情報について報告いただきました。これらを出発点に、司会の森岡修一会員（大妻女子大学）による論点整理をへて、フロアを交え現在の学力政策の国際的動向や日本への示唆などが示されました。残念なことに予定されていた石森広美会員（宮城県仙台二華高等学校）の「シンガポールの学力政策―大学入試制度・高大接続の観点から―」が発表者急病のためキャンセルされましたが、時間いっぱいまで活発な議論が交わされました。

今回の大会参加者総数は 56 名で、シンポジウム 1 件、課題研究 1 件、自由研究発表は 22 件（うち 2 件は当日キャンセル）でした。また懇親会は初日の総会終了後にキャンパス内のマーガレットホール 2 階「カフェ 101」で約 30 人の参加者で和やかに行われました。

最後に、大会の準備にあたっては、理事及び会員各位、とりわけ前回大会の宇都宮大学の若園雄志郎会員には細部にわたってご協力いただきました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

第 26 回大会の「発表要旨集」は、まだ残部があります。ご希望の方は、渡辺（watanabe-y@star.sagami-wu.ac.jp）までお知らせ下さい。実費にてお送りいたします。

---

2. 大会の感想

日本国際教育学会第 25 回大会に参加して

植田 啓嗣（早稲田大学）

私は、昨年の秋に日本国際教育学会へ入会させていただき、初めて迎えた研究大会である本大会において自由研究発表の機会をいただいた。はじめての参加にも関わらず、居心地の良さを感じるアットホームな学会であり、入会して良かったと感じた二日間であった。

本学会は様々な国をフィールドとする研究者で構成されており、グローバリズムの最先端をいく学会であることを実感した。本大会の自由研究発表を見ると、日本、韓国、中国、香港、アメリカ、イギリス、フィンランド、スウェーデン、オーストラリア、ニュージーランド、エジプト、メキシコ、そして私の専門であるタイなどがあり、非常にバラエティに富んだ構成であった。

公開シンポジウムは「ミクロネシア地域の教育課題」と題し、ミクロネシア連邦、パラオ共和国、マーシャル諸島共和国の教育というとても興味深いお話をうかがうことができ

た。全世界の様々な学会を見渡しても、ミクロネシアの教育に焦点を当てるのは本学会が最初であろう。未開拓な研究領域を切りひらいていけるところが本学会の強みであると感じた。

懇親会の場においても本学会の特長があらわれた。おいしい日本酒、ワイン、紹興酒に加えて、なんとタイの蒸留酒であるメコンウイスキーが用意されてあるのである。ウイスキーと言うにもかかわらず、原材料は麦ではなく米である。つまり、正確にはメコンウイスキーはメコン米焼酎なのである。また、タイではビールに氷を入れて飲む習慣がある。会員の皆様もタイにいらっしゃった際には、メコンウイスキーと氷ビールにチャレンジしていただきたいと思う。

最後にではあるが、ドンムアン空港でゴルフを楽しむほどタイを愛してくださっている大会実行委員長の渡辺幸倫先生をはじめ、相模女子大学の学生スタッフ、学会事務局の皆様に記して御礼申し上げたい。素敵な大会運営をありがとうございました。

大会の感想

佐藤 有（相模女子大学学芸学部）

私は今回の学会に学生スタッフとして参加させていただきました。まだ大学生である私にとって、初めて学会というものの空気に触れたことや、日本や海外の国々の教育についての研究発表を拝聴する機会をいただけたことは非常に貴重な経験となりました。

その中でも、私が特に興味を引かれたのは「ミクロネシア地域の教育課題」をテーマとした公開シンポジウムです。恥ずかしながら、ミクロネシア地域という言葉すら知らずどのような国々なのか発表をお聞きするまで知識が全くありませんでした。また日本で生まれ育ち、日本の教育を当たり前のように受けてきた私にとって、このシンポジウムでのお話は非常に印象深いものとなりました。学校という教育が行われる現場において無くてはならない教科書が配布されないこと、学生にとって指導してくださる先生という立場の人が時間通りに出勤をしないこと、そもそも時間割通りに授業が行われない場合があるなどといったお話は、私の中の学校での当たり前や常識を覆されたような気持ちにさせられました。こういった問題に対して、海外青年協力隊といった形で単純に指導員を派遣するだけでなく、根本的な改善に向けて今後どういった活動をする必要が求められるのか、そういった日本の教育現場と普段あまり関心を持ったことがないような地域の教育現場の違いや課題などを伺うことができて非常に興味深かったです。

また、学会後の懇親会の場においても、不慣れな私たち学生スタッフにもたくさんの方々が優しくお声を掛けてくださり楽しい時間を過ごさせていただきました。

最後になりますが、微力ながらも今回の学会に学生スタッフとして携わる機会をいただけたことに皆様に深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

3. 第 26 回大会収支報告

収入		
項目	金額	備考
大会補助費	200,000	
参加費	150,000	3,000 円×50 シンポジウム参加者は参加費無料
懇親会費	116,000	4,000 円×29
合計	**466,300**	

支出		
項目	金額	備考
アルバイト	69,800	事前及び当日のべ 77 時間
印刷代	114,912	プログラム 200 部、発表要旨 100 部
懇親会費	140,000	4,000 円×35
謝礼	40,000	シンポジウム登壇者
郵送費	47,369	大会案内、プログラムなど
備品・消耗品	8,243	控室お茶・お菓子代
合計	**420,324**	

第 26 回 総 会 報 告

1. 日本国際教育学会第 26 回総会議事録

日時：2015 年 9 月 12 日（土）16:40～17:50
会場：相模女子大学 11 号館 1115 教室
記録：田中達也

開会の辞
　佐藤千津副会長より、開会の辞があった。

会場校挨拶
　渡辺幸倫第 26 回大会実行委員長より挨拶があり、大会実行委員、参加者に対する謝辞があった。

学会長挨拶
　岩﨑正吾会長より挨拶があり、大会開催校、大会実行委員、参加者に感謝の意が述べられた。また、理事会で若手研究者推薦論文に代わる学会活性化策について議論しているこ

とも説明された。具体的には、27 回大会以降の発表者を対象にしながら 30 回記念号を早めに発行する計画を進めており、内容の詳細は後日ニューズレターやホームページで公表する予定であるとのことであった。

議長団選出

自薦・他薦がなかったため、事務局より鳥井康照会員、大谷杏会員が推薦され、承認された。山﨑直也事務局長より出席者、委任状の合計が過半数に達しなかったため（出席者 26 通、委任状 42 通）、日本国際教育学会規則第 5 条第 2 項に定める総会開催要件を満たしていないため、同第 3 項に基づき本総会の決議を仮決議とし、総会終了後 1 か月以内に異議が出されない場合は本決議とみなすことが説明された。

Ⅰ．報告・承認・決議事項

1. 2014 年度（2014 年 8 月 1 日～2015 年 7 月 31 日）会務報告

(1) 会員数の現況

山﨑直也事務局長より、資料 1 に基づき、2015 年 9 月 12 日現在の会員数が 195 名（名誉理事 5 名を含む）であることが報告された。

(2) 2014 年度活動報告

山﨑直也事務局長より、資料 1 に基づき、2014 年度の学会の活動が報告された。

(3) 2014 年度決算報告

山﨑直也事務局長より、資料 1 に基づき、2014 年度の会計決算が報告された。収入の部については、会費の大幅な増加と紀要販売の減少が、支出の部については全般的に予算どおりに抑えることができたことが報告された。

2. 2014 年度会計監査報告

黒木貴人会計監査より、資料 1 に基づき、2015 年 8 月 18 日と 26 日に会計監査がなされ、2014 年度会計決算が適正であると確認されたと報告された。

3. 各種委員会報告

(1) 紀要編集員会報告

小川佳万紀要編集委員長が所用で欠席のため、山﨑直也事務局長が代理で資料 2 に基づき報告を行った。『国際教育』第 21 号の編集作業と、紀要第 22 号から投稿要領を改訂し投稿時に原稿の電子ファイルを同時に提出することになったことが報告された。例年と比べ投稿数が少なかったため、第 22 号への積極的な投稿が呼びかけられた。

(2) 学会賞選考委員会報告

江原裕美学会賞選考委員長より、口頭で該当する著書がなかったため学会賞を見送ると報告された。今後会員の研究成果に関する情報があれば寄せて欲しいとの要望があった。

(3) 紀要電子化推進委員会報告

大迫章史紀要電子化推進委員長が所用で欠席のため、山﨑直也事務局長が代理で資料 3 に基づき報告を行った。日本国際教育学会紀要『国際教育』の紀要電子化について当初 CINII の利用を考え国立情報学研究所に問い合わせたのだが、CINII のサービスが終了する予定であるため、J-STAGE への登録を準備することになった。今後の予定としては、17 号までの紀要の電子化（PDF 化）を考えている。

4. その他

なし

Ⅱ．審議事項

1. 2015 年度（2015 年 8 月 1 日～2016 年 7 月 31 日）事業計画

(1) 2015 年度活動計画（案）

山﨑直也事務局長より資料 4 に基づき、2015 年度の活動計画案が提案され、原案のとおり承認された。今期は、「学会名簿の改訂を行う」「電子メールによる情報配信サービスを充実させる」「投稿件数の増加に努める」ことが強調された。

(2) 2015 年度予算（案）

山﨑直也事務局長より資料 4 に基づき 2015 年度（第 26 期）予算案が提案され、原案のとおり承認された。昨年度の予算から唯一変化があったのは、支出の部の消耗品費で 4 万円から 5 万円に増加した。

2. 学会諸規程の改定について

規約担当の江原裕美理事より、資料 5 に基づき日本国際教育学会規則及び関連諸規定の改定が提案され承認された。大きく分けて事務局移転に関わる条文の挿入と国籍条項の廃止によって必要な改定の 2 つに分かれる。まず、日本国際教育学会規則に事務局移転に関わる条文が新たに第 13 条として挿入され、旧 13 条が新 14 条に変更された。また、国籍条項が廃止されたため、日本国際教育学会規則第 5 条・第 6 条、日本国際教育学会役員選挙規程第 3 条・第 4 条・第 5 条が改定された。役員選挙についても時間上の表現を明確にするため、日本国際教育学会役員選挙規定細則第 3 条が改定された。

3. 選挙管理委員の選任について

山﨑直也事務局長より日本国際教育学会規則第 6 条第 10 項「選挙管理委員会（委員長 1 名、委員 4 名）」に基づいて、選挙管理委員の選任が表明された。自薦・他薦がなかったため、理事会より入澤充会員（国士舘大学）、田中真奈美会員（東京未来大学）、村山拓会員（東京学芸大学）、森岡修一会員（大妻女子大学）が提案され承認された。

4. 第 27 回研究大会の開催校について

第 27 回大会担当の大庭由子理事より、次回大会は広島県の安田女子大学で 2016 年 9 月 10 日（土）・11 日（日）に開催予定であることが報告され承認された。

5. その他

なし

議長団解任

佐藤千津副会長より、議長団の鳥井康照会員、大谷杏会員に謝辞が述べられ、議長団が解任された。

閉会の辞

佐藤千津副会長より閉会の辞があり閉会された。

2. 2014 年度（25 期）決算報告及び 2015 年度（26 期）予算案

日本国際教育学会　2014 年度（第 25 期）会計決算・監査報告
（2014 年 8 月 1 日から 2015 年 7 月 31 日）

収入の部

費目	予算	決算	備考
前年度繰越金	2,669,001 円	2,669,001 円	
会費	900,000 円	1,451,000 円	2014 年度　一般 94 口／学生 36 口 過年度分清算　245,000 円 次年度分前納　50,000 円
利子	200 円	0 円	
紀要販売	30,000 円	12,096 円	新刊 4 冊
寄付金	0 円	0 円	
雑収入	0 円	0 円	
合計	3,599,201 円	4,132,097 円	

支出の部

費目	予算	決算	備考
交通費	200,000 円	58,920 円	事務局作業、紀要編集委員会など
消耗品費	40,000 円	43,546 円	封筒、IC レコーダ、ラベルシールなど
郵送費	100,000 円	65,421 円	紀要発送など
会合費	60,000 円	55,400 円	理事会弁当代
大会開催補助費	200,000 円	216,682 円	第 25 回大会追加分、第 26 回大会
庶務費	60,000 円	5,016 円	振込手数料、コピー代など
謝礼費	120,000 円	44,450 円	事務局作業、紀要英文校閲
印刷費	700,000 円	682,076 円	紀要、ニューズレター
予備費	50,000 円	38,404 円	サーバレンタル、ドメイン利用料 教育学関連学会協議会年会費
次年度繰越金	2,019,201 円	2,872,182 円	郵便局 2,822,183 円／現金 49,999 円
30 周年記念企画積立金	50,000 円	50,000 円	累計 300,000 円
合計	3,599,201 円	4,132,097 円	

上記の通り報告致します。
2015 年 8 月 9 日　　事務局長　山崎 直也　印

監査の結果、正確であったことを認めます。
2015 年 8 月 18 日　　会計監査　黒木 貴人　印

2015 年 8 月 26 日　　会計監査　新井 浅浩　印

日本国際教育学会　2015 年度（第 26 期）予算案
（期間　2015 年 8 月 1 日～2016 年 7 月 31 日）

収入の部

費目	予算	詳細
前年度繰越金	2,872,182	
会費	1,110,000	正会員×84 口、学生会員×45 口（いずれも納入率を約 7 割と想定）
利子	0	ゆうちょ銀行口座利子
紀要販売	30,000	機関・個人購読　3000×10 口
寄付金	0	
雑収入	0	
収入合計	4,002,182	

支出の部

費目	予算	詳細
交通費	200,000	事務局及び各種委員会交通費補助など
消耗品費	50,000	封筒・切手・用紙代など
郵送費	100,000	紀要・ニューズレター送料など
会合費	60,000	理事会・紀要編集委員会の会場費・弁当代など
大会開催補助費	200,000	第 27 回大会開催補助費
庶務費	60,000	コピー・振込手数料など
謝礼費	120,000	講演謝礼、事務局及び各種委員会アルバイト代など
印刷費	700,000	紀要印刷・編集費 650,000　ニューズレター印刷費 50,000
予備費	50,000	サーバー維持・管理費など
次年度繰越金	2,412,182	
30 周年記念企画積立金	50,000	2015 年度分
支出合計	4,002,182	

30 周年記念企画積立金

前年度繰越金	300,000	2009-14 年度分

3．2015-2016 年度　日本国際教育学会役員一覧

【理事会】

役　職	氏　名	所　　属	担　　当	国籍
会長	岩﨑 正吾	早稲田大学		日本
副会長	佐藤 千津	東京学芸大学		日本
理事	江原 裕美	帝京大学	規程、学会賞	日本
同	大庭 由子	安田女子大学	研究大会（第27回）	日本
同	岡田 昭人	東京外国語大学	広報	日本
同	小川 佳万	東北大学	紀要編集	日本
同	田中 達也	釧路公立大学	事務局	日本
同	西村 貴之	北翔大学	ニューズレター	日本
同	羽田 積男	日本大学	規程	日本
同	福田 誠治	都留文科大学	研究	日本
同	前田 耕司	早稲田大学	研究、学会賞	日本
同	山﨑 直也	帝京大学	事務局	日本
同	若園 雄志郎	宇都宮大学	ニューズレター	日本
同	裘 暁蘭	上海社会科学院青少年研究所	国際交流	中国
同	楊 武勳	国立暨南国際大学	国際交流、学会賞	台湾
特任理事	渡辺 幸倫	相模女子大学	研究大会（第26回）	日本

【事務局】

役　職	氏　名	所　　属	担　　当
事務局長	山﨑 直也	帝京大学	
事務局次長	田中 達也	釧路公立大学	理事会
同	寺野 摩弓	国際教養大学	ホームページ
事務局幹事	呉 世蓮	早稲田大学（非常勤）	会計
同	西村 芳彦	早稲田大学（院生）	理事会

【会計監査】

役　職	氏　名	所　　属
会計監査	新井 浅浩	城西大学
同	黒木 貴人	広島文化学園大学

【各種委員会】

役　　職	氏　名	所　　属
紀要編集委員会委員長	小川 佳万	東北大学
同　副委員長	渡部 孝子	群馬大学
同　委員	太田 浩	一橋大学
同	小山 晶子	名古屋大学
同	桑原 清	北海道教育大学
同	斉藤 泰雄	国立教育政策研究所名誉所員
同	平岡 さつき	共愛学園前橋国際大学
同	森岡 修一	大妻女子大学
同　編集幹事	白幡 真紀	日本学術振興会特別研究員
選挙管理委員会　委員	入澤 充	国士舘大学
同	田中 真奈美	東京未来大学
同	村山 拓	東京学芸大学
同	森岡 修一	大妻女子大学
学会賞選考委員会委員長	江原 裕美	帝京大学
同　委員	牛渡 淳	仙台白百合女子大学
同	前田 耕司	早稲田大学
同	森岡 修一	大妻女子大学（紀要編集委員兼任）
同	楊 武勲	国立暨南国際大学
同　幹事	工藤 瞳	日本学術振興会特別研究員
紀要電子化推進委員会委員長	大迫 章史	仙台白百合女子大学
同　幹事	高橋 春菜	東北大学（院生）

事 務 局 だ よ り

1．連絡先・ご所属変更を至急お知らせ下さい.

所属変更等にともない会員資格や連絡先に変更がある方がおられましたら、事務局までメール（jies_jimukyoku@jies.gr.jp）にてご一報下さい。

2．新入会員紹介

氏　名	所　　属	入会承認理事会
SOTTILE MARCO	椙山女学園大学（非常勤）	2014 年度第 3 回
林 芷伊	上智大学（院生）	2014 年度第 3 回
坂田 のぞみ	英国・ロンドン大学（院生）	2014 年度第 3 回
川﨑 妙美	東京外国語大学（院生）	2015 年度第 1 回
内田 直義	名古屋大学（院生）	2015 年度第 1 回
加瀬 由香里	帝京第五高等学校（教諭）	2015 年度第 1 回
瀧藤 尊子	四天王寺大学（非常勤）	2015 年度第 1 回
林 思敏	台湾・中山医学大学	2015 年度第 1 回
藤田 ラウンド 幸世	立教大学	2015 年度第 1 回
小林 邦子	近大姫路大学	2015 年度第 1 回
北野 秋男	日本大学文理学部	2015 年度第 1 回
長谷川 紀子	名古屋大学（院生）	2015 年度第 1 回
相沢 友紀	東京都立墨東特別支援学校（教諭）	2015 年度第 2 回
澤田 敬人	静岡県立大学	2015 年度第 2 回
玉井 昇	大分県立芸術文化短期大学	2015 年度第 2 回
賽漢花 （サイハンホア）	愛知県立大学（院生）	2015 年度第 2 回
秋庭 裕子	一橋大学	2015 年度第 2 回

日本国際教育学会紀要『国際教育』第 22 号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では『国際教育』第 22 号の発刊に際し、自由投稿論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします（2016 年 3 月 1 日必着）。投稿希望の会員は以下の要領にしたがって投稿して下さい。なお、投稿原稿の募集に関しては、本学会公式ウェブサイト（http://www.jies.gr.jp/）の「学会紀要」のページで「編集規程」および「投稿要領」に関する最新情報を必ず確認するようにして下さい。

1．投稿要領（論文・その他）

（1）投稿資格

投稿資格は、日本国際教育学会の会員に限られる。投稿に際して、入会審査が完了していること、当該年度の会費を完納していることが投稿の条件となる。

（2）投稿論文（等）のテーマ

論文（等）のテーマは日本国際教育学会活動の趣旨に沿うものとする。

（3）投稿原稿の要件

① 投稿原稿は、口頭発表の場合を除き，未発表のものに限る。
② 使用言語は、日本語、英語、中国語のいずれかとする。
③ 他の学会誌や研究紀要などへの投稿原稿と著しく重複する内容の原稿を本誌に併行して投稿することは認めない。
④ 前号に論文（等）が採用された者の連続投稿は原則として認めない。
⑤ 本投稿要領に反する原稿は受理できない。

（4）投稿原稿の種類

① 研究論文：国際教育に関する理論的知見を伴う研究成果であり、独創性のある実証的または理論的な論考。
② 研究ノート：論文に準じ、断片的に得られた研究成果や調査成果であり、特に新しい知見、萌芽的な研究課題、少数事例、新しい調査・研究方法、などの発見・提起に関する考察で発展性のあるもの。
③ 調査報告：国際教育に関する調査の報告であり、調査の目的と方法が明確で、なおかつ調査結果の分析と解釈が妥当で資料的価値が認められるもの。
④ 教育情報：国際教育の参考となる研究・実践・政策等に関する情報で、速報性と話題性の観点から研究上の価値が認められるもの。
⑤ 資料紹介：国際教育の参考となる資料の紹介であり、国際教育の研究と実践においてその資料を広く共有することの意義が認められるもの。

（5）原稿の様式

① 原稿は、図や表、脚注を含めて全て横書き、ワープロ書き、10.5 ポイントとし、A4 判用紙を使用することとする。
② 和文、中文は、1 行 40 字×40 行(1,600 字)で印字する。英文はダブル・スペース 22 行とする。

③　執筆分量は下表の通りとする。

投稿原稿の別	ページ数制限
論文（Research Paper）	和文 10 ページ以内 英文 23 ページ以内 中文 6 ページ以内
研究ノート（Research Note）	和文 5 ページ以内 英文 15 ページ以内 中文 3 ページ以内
調査報告（Research Report）	
教育情報（Research Information）	
資料紹介（Data）	

④　英文原稿は American Psychological Association's Manual of Style, 5th Edition に準拠する。

⑤　題目は 12 ポイントとし、日本語・中国語の場合は副題も含めて 30 字以内、英語の場合は 15 words 以内とする。

⑥　原稿にはページ番号を付す。

⑦　審査の公平を期するため、提出する原稿において「拙著」「拙稿」の表現や、研究助成や共同研究者・研究協力者等に対する謝辞など、投稿者名が判明するような記述は行わない。

⑧　投稿に際しては、十分に推敲を行うこと。特に外国語を使用する場合、誤字・誤記あるいは文法的誤りのないように十全の準備を行い投稿すること。

（6）原稿送付方法

1)　投稿原稿は、原稿と要旨のハードコピーを各 3 部（うち 2 部は匿名。複写可とする）およびその電子ファイル（Microsoft Word: 拡張子 doc もしくは docx）を提出する。

2)　別紙（A4 判）に、投稿原稿種の区分、原稿の題目、氏名、所属・職名、連絡先（住所、電話、メールアドレス）を記入して 1 部添付する。

3)　和文論文には英語 500 語以内の要旨、英語・中国語論文には日本語の要旨（A4×1 枚以内。字数は上記規定に準拠する)を 3 部（うち 2 部は匿名）添付する。

4)　英文要旨にはその日本語訳を 3 部（うち 2 部は匿名）添付する。

5)　提出後の原稿の差し替えは認めない。また原稿は返却しない。

6)　投稿する論文（等）と内容の面で重複する部分を含む論文（等）を既に発表ないし投稿している場合は、その論文（等）のコピーを 1 部添付する。

（7）原稿送付期限

投稿原稿は 2016 年 3 月 1 日（必着）までに、紀要編集委員会宛に提出するものとする。投稿原稿は、紀要編集委員会において審査を行い、採択、修正のうえ再審査、不採択が決定され、投稿者に通知される。再審査の場合、定められた期間内での原稿修正の権利が与えられる。

2．問い合わせ先／原稿送付先

日本国際教育学会紀要編集委員会事務局
〒739-8524　広島県東広島市鏡山 1-1-1
広島大学大学院教育学研究科　小川佳万気付
Tel &Fax: 082-424-6751　　email: yogawa@hiroshima-u.ac.jp

ADDITIONAL GUIDELINES FOR ENGLISH MANUSCRIPTS
CALL FOR PAPERS: JOURNAL of INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 22

Submissions to the 22nd edition of the Journal of International Education are now being accepted, with a deadline of March 1, 2016. Authors making submissions in English should review the following guidelines. Any manuscripts not conforming to this procedure will not be accepted. Authors should also refer to the latest version of this procedure in addition to the Provisions for Editing Bulletins of JIES on the JIES website (http://www.jies.gr.jp/) before submission.

1. Conditions for accepting manuscripts
   (1) Manuscripts must be original work of the author(s).
   (2) Journal of International Education (JIE) considers all manuscripts on the strict condition that they have been submitted only to JIE, that they have not been published already, nor are they under consideration for publication elsewhere.
   (3) Authors whose papers were accepted in the previous year cannot submit in the present year.

2. Submission
   (1) Papers should be double spaced, submitted on A4-size paper, contain twenty-two lines per page, and be no longer than twenty-three pages in total length. Margins on the top, bottom, and sides should be no shorter than 2.5 centimeters (i.e., one inch).
   (2) Three copies should be submitted to the Editorial Committee for review. One copy should include the author's name, address, institutional affiliation, and phone number on the cover, and the other two should include only the title in order to maintain the author's anonymity. An electronic version should also be included.
   (3) A cover sheet should include the category of the manuscript (choose one from this list: research paper; research note; research report; research information; data), title, author's name, author's affiliation, mailing address, telephone/fax number, and e-mail address.
   (4) A completed manuscript should be submitted and cannot be returned or replaced once submitted.
   (5) All English manuscripts must include a Japanese abstract that is no longer than one page in length (A4 size).
   (6) For pagination, use Arabic numerals.
   (7) The manuscripts should not have any textual references to the author(s). References to the author's names should be blacked out. The acknowledgements should not be included at the time of submission.
   (8) Electronic-only versions of manuscripts will not be accepted.

3. Style and format
   For general guidelines on appropriate style and format, please refer to the Publication Manual of the American Psychological Association, 5th Edition.
   Example:
   Smith, J. (2000). *The educational challenges of the new century*. New York: Broadway Publishing.
   Pavil, S. (1997). Capitalizing on cultural capital: The movement of knowledge through corporations. *Harvard Business Journal*, 14 (1), 654-675.

4. Decision to accept

All manuscripts will be accepted without revisions; accepted conditionally, with stipulations for more revisions; or rejected. In the case of conditional acceptance, the Editorial Committee reserves the right to reject a manuscript after revisions have been made if revisions are deemed insufficient. Once the manuscript is accepted for the publication, author(s) should submit the revised electronic version (including Japanese abstract).

5. All authors are encouraged to have their manuscript copy-edited before submitting the paper, especially authors for whom English is a foreign language. Writers who submit manuscripts that have typographical and/or grammatical errors risk having their papers rejected.

Please send all submissions by postal mail to:

Dr. Yoshikazu Ogawa

Graduate School of Education, Hiroshima University, 1-1-1 Kagamiyama Higashi-Hiroshima, 739-8524, JAPAN

Inquiries about the journal may be directed to Dr. Ogawa by e-mail (yogawa@hiroshima-u.ac.jp).

第 27 回大会のお知らせ

実行委員長　大庭 由子

第 27 回大会は下記の通り開催することとなりましたのでご案内いたします。遠方ではございますが、一人でも多くの学会員のお越しを心よりお待ちいたしております。

日程　2016 年 9 月 10 日（土）・11 日（日）
会場　安田女子大学
アクセス　東京駅から
新幹線広島駅下車、JR 在来線にて広島駅から 1 駅目「新白島（シンハクシマ）駅」から
アストラムライン利用（約 18 分）。安東（ヤスヒガシ）駅下車徒歩 10 分。

羽田空港から
広島空港（ANA・JAL とも直行便あり）広島空港から JR 広島駅まで
空港リムジンバスにて約 50 分。
JR 在来線にて広島駅から 1 駅目「新白島（シンハクシマ）駅」から
アストラムライン利用。（約 18 分）安東（ヤスヒガシ）駅下車徒歩 10 分。

2016 Conference Information

27th Annual Conference:
September 10-11, 2016
Yasuda Women's University (http://www.yasuda-u.com/en/)
For further information visit our website http://www.jies.gr.jp

日本国際教育学会　Newsletter No. 27
編集発行　日本国際教育学会　代表　岩﨑正吾
発行所　192-0395　東京都八王子市大塚 359
帝京大学　山﨑直也研究室気付
日本国際教育学会事務局
jies_jimukyoku@jies.gr.jp
http://www.jies.gr.jp
発行年月日　2016 年 1 月 31 日